

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	第4回 枚方市総合計画審議会 第1部会
開 催 日 時	平成27年3月23日（月） 18時05分から20時15分まで
開 催 場 所	枚方市立総合福祉会館ラポールひらかた3階 研修室1
出 席 者	部会長：新川委員 副部会長：加藤委員 委員：岡田委員、北川委員、小原委員、本田委員、宮原委員、三輪敦子委員 三輪信哉委員
欠 席 者	徳久委員
案 件 名	1. 基本計画に係る部門別の取り組みについて 2. 今後の進め方について
提出された資料等の 名 称	1. 委員からの追加意見一覧 2. 市議会からの意見等一覧（平成27年3月） 3. 総合計画策定スケジュール（案） 参考資料1. 第3回 第1部会における委員意見一覧 参考資料2. 第3回 第2部会における委員意見一覧
決 定 事 項	1. 第3回部会の資料「部門別の課題と対応一覧（案）」及び「部門別の取り組み進捗状況一覧」に基づき、基本目標「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、「自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち」、及び「行政運営」に関する各部門について、基本計画に掲載していく課題や対応の内容を議論・確認した。 2. 第3回及び第4回の部会の意見を踏まえて、事務局から、「部門別の課題と対応一覧（案）」の修正案等を提示させ、次回の審議会で議論・確認することとした。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	2人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	政策企画部 企画課

審 議 内 容

新川部会長

5分ほど遅れてしまいました。枚方市総合計画審議会第1部会、第4回になりますが、始めたいと思います。

今日の部会ですけれども、前回の部会で、部門別の課題対応につきまして、各委員からいろいろご意見をいただきました。その後も委員からいただいたご意見を事務局の方でまとめていただいたものをご説明いただきたいと思います。その上で、前回、基本計画の前半の3つの柱をご議論いただきましたので、今日は、主には、後半の2つの柱とそれから行政運営のところ、この3つを中心に議論いただきますが、もちろんいろいろご意見をいただいていますし、第2部会でもいろいろご意見が出ているようですので、前半の3つの柱についてもきちんとご意見をいただいでいく、そんなふうに進めていきたいと思っています。一応今日は後半部分を中心に進めますが、この後の事務局の説明でもあると思いますが、前半部分もいろいろご意見が出ているので、また追加していただければと思います。

なお、前回の審議会で本日の進め方について確認させていただいております。各部門全体をご議論いただいて、その後、時間的余裕があれば重点的に、少し部門横断的にといますか、横串を刺すという言い方をこれまでしてきましたけれども、重点的な取り組みについてもご意見をいただければと思っております。

それでは、まずは事務局の方から本日の委員の出席状況、それから資料の確認をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

本日の出席委員は9名でございます。したがって、枚方市附属機関条例に基づきまして、この部会が成立していることをご報告申し上げます。

(手元の資料の確認)

新川部会長

それでは、早速進めてまいりたいと思います。

本日の案件の方にまいりたいと思います。

まずは、「基本計画に係る部門別の取り組みについて」ということで、事務局の方から説明をいただきたいと思います。

なお、事前に各委員のところに資料をお届けさせていただいておりますので、一応、読んでいただいていることを前提として、簡潔にご説明いただければと思います。

それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

事務局

(資料1「委員からの追加意見等一覧」)の説明

(資料2「市議会からの意見等一覧(平成27年3月)」)の説明

(参考資料1「第3回 第1部会における委員意見一覧」)の説明

(参考資料2「第3回 第2部会における委員意見一覧」)の説明

新川部会長

どうもありがとうございました。それでは、先ほど来、申し上げているように、限られた時間ですが、今日も全体で2時間くらい、午後8時を目途にと思っています。そういたしますと、基本目標の柱を3つやらないといけないので、およそ30分を目途にそれぞれの立場についてご意見をいただき、そして、その後、前回ご議論いただいたものや、あるいは時間があれば、重点化をすべきもの、横串を刺すべきものについてご意見をいただいでいく、そんな順番で進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、基本目標の4つ目、「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、これから順番にいきたいと思います。お手元の資料の13ページ目、これにつきましてご意見をいただいでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。どうぞご自由にどの点からでも結構です。

すでに、意見聴取等でいただきましたご意見、重ねてで結構でございますので、皆様にぜひ改めてご披露いただければと思います。よろしくお願いいたします。

加藤副部長	<p>今回の総合計画では、市民が行政サービスの一部と見られるとといいますか、市民と協働するというのがテーマの1つとして掲げていると思うんですね。この前までのところではそれが出ていて、今回例えば、「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、僕の専門ですが、例えばビジネスという観点からすると、そういう市民が市民を支えていくときに、例えばコミュニティビジネスみたいなものがあると思うんですけど、こういうことを振興するための施策というのは、この中ではきっちり位置付けられているんですかね。もちろん、その前にコミュニティビジネスではなくて商業とかそういうものも含めたような形のものを書いてはいるんですよ。商工業の振興というのは、大体どこでも書くんですけど、それがどれだけ本気でやられているのかというのがあってね。</p> <p>コミュニティビジネスみたいなものを振興するというのはどんなものなんでしょう。例えば、大阪市の場合は、起業などを振興する産創館というところがあるんですけど、この産創館ではコミュニティビジネスの振興というのはプログラムの中に入っていないんですよ。飲食などで起業する場合は産創館で一生懸命支援するんですけど、コミュニティビジネスというのはそこではないし、コミュニティビジネスをやられる方の資質、性格と、いわゆるビジネスを引っ張っていきこうというのはちょっと違うので、同じ枠組みの中では振興できないと言われていたりするんです。その辺がどうなのかと。ないんだったらないで結構なので、そういう視点もいるんじゃないかと。</p>
事務局	<p>今、副部長の方からもご指摘がございましたが、今、示している基本計画の中には、具体的にそういった視点で書いている項目はございません。今後、こういった形にしていくのかというのは、また検討していくことになりますけれども、ご指摘等を踏まえまして、また事務局の方でも検討してまいります。</p>
新川部会長	<p>今の地方創生の流れから言いましても、こういう仕事づくりというのは相当大的な関心が集まっていて、こういう枚方のように、どちらかと言えば住宅的な側面の強いところで、どういう事業起こしができるか、それも従来型の大企業ではない、企業誘致型ではない、地域の起業みたいなものができるか、これは割と大きな論点かな。これは典型的なコミュニティビジネスですし、もうちょっと社会性を持ったソーシャルビジネスみたいなものもあります。もうそろそろそういうのを立てないといけない時代ではないでしょうか。</p>
加藤副部長	<p>前回、文化的な活動で、生きがいというか、何かを感じるというのはあると思いますけれども、そのコミュニティビジネスと同じような、何かを感じる世代、人たちって多くなってきていると思うんですよ。その辺をどうするかということと、商業の関係でいうと、例えば、うちの大学のところまでだんだん南進してきているんですけど、ちょっと古い家を改装して、雰囲気のいいカフェにしたり、パン屋さんを開業したり、レストランとか出てきているんですよ。そういうのは枚方で例はありますか。そういう何か新しい動きというか。</p>
三輪敦子委員	<p>今のところ、市としてはないということだと思うのですが、コミュニティビジネスをどのようにイメージしているかによっても、考え方やアプローチが変わってくるかもしれません。13ページの「観光・交流」の部門のところに載っている五六市なんですけれども、たまたま去年の12月に行かせていただいて、1日、五六市を楽しませていただきました。個人的には五六市というのは、素晴らしいコミュニティビジネスの1つの形だと思いました。まさしく、先ほどおっしゃられていたような、古いまち並みなどの観光資源を生かした市場というかマーケットで、しかもそこには、本当に若い方が自分たちのカフェとか手作りの雑貨を売るお店をたくさん開いている場所があって、素晴らしいと思ったんです。五六市は、今は「観光・交流」の部門の中に入れられているのですが、コミュニティビジネス的観点からもとらえることができるのではないかと思います。しかも、私は以前、枚方に住んでいながら、なんで五六市なのかという背景がまったくわからなかったのですが、東海道の五十六次ということだそうですね。教育という観点</p>

	<p>からも、活用できる歴史的資源だと思いますし、非常にポテンシャルが高いと思いました。コミュニティビジネスとして発信していける余地もあるんじゃないかと思います。五六市はすごくたのしかったので、ぜひ、一度行っていただきたいです。</p>
加藤副部長	<p>さっき聞いたので確認ですが、枚方市内でも空きビルとか空き店舗ってあると思うんですけど、そういうのってたくさんあるものなんですか。商店街の裏側に、だれも入らなくなったようなビルがずっと何年間もあるような、そういう雰囲気ではないんですか。</p>
事務局	<p>そんなに多くはないと思います。</p>
加藤副部長	<p>先ほど聞いてきたのは、北九州市の小倉は空きビルとかたくさんできていて、賃料はあまり下がらなかつたらしいんですけど、中には非常に下がっていて家賃ゼロでも買い手がつかないような物件とかあるらしいのです。たまたま商店街の方が裏側に持っていたビルで、それをリノベーションしたことによって、50人くらいの方が、そこで自分の手作りのものを売ったりしているのです。</p> <p>よく起業しなさいとか、新規のビジネスとか言うんですが、その方は家守（やもり）という非常におもしろいことを言っていました、要するに家賃がものすごく下がっていて、そこにちょっと改装を加えることによって、お客様もちゃんと期待できるし、賃料の収入も上がってくる。そういう仕組みを入れることによって、街を活性化しようとしているんですね。だから、一気にハードを変えるのではなくて、少しずつ変えることによってそこに賑いが生まれるということをおっしゃっていたんですね。それは、行政がかなりバックアップして、家守（やもり）というか、要するに家を持っている家主が貸してもいい、あるいはリノベーションしてもいいとなれば、何回も勉強会したり専門家を呼んだりして、このビルをどんなふうにもリノベーションしたら、ちゃんとビジネスとして成り立つのかみたいなことをずっとやるらしいんですよ。そういうことを市がやるべきじゃないかとちょっと思ったりするんです。中心市街地のように大きくとやるのもいいんですけど、そうやって小さく少しずつやるのも、一つの考え方としてあってもいいのかなと思いました。先ほど聞いてきた話だったのでお伝えしておきます。</p>
新川部会長	<p>ぜひ参考にしていただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>先ほど空き家という話があったんですが、国全体としては、空き家率っていうのは非常にこれから高まっていく。大阪でも全国でも非常に高くて約14%。7件に1件は空き家になっていくという話があって、それを地域資源と見るのか、あるいはくずと見るのか、見方とやり方によって、それが退いた後とか、非常にコミュニティに役立つ方法もあるだろうし、これから現実味を帯びて出てくるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。</p>
新川部会長	<p>事務局の方で空き家の問題だとかお考えのことがございましたら。</p>
事務局	<p>空き家に関しまして、枚方の空き家率はたしか約11%だったと思います。今おっしゃったように、国の方でも基本方針を出すという形になっていますので、それはあくまでいわゆる規制の方になりますけれども、活用していくというのは、今、地方版総合戦略など、その辺では考えていけないといけない大きな課題であると考えています。</p>
三輪信哉委員	<p>実際に7軒に1軒が空き家というのは非常に空間的にも占める割合が高くて、そういう意味ではどこにも書き込まないでそのままいいのかなという感じがしましてね。例えば、空き家が出てきたときに、その適正な活用に向かって、コミュニティの活性化に繋げるとか、あるいは小さな菜園計画ができるとか、それをもし使うことが可能ならば、それはコミュニティにとって有益になりえるという感じがしますので、どこかに挟み込んでいただけたらと思います。</p>

小原委員	<p>我々の町内を見ると、だいたい10軒に1軒くらいの空き家が今もありますね。そうしますと、そこには草が生えたりして防犯に悪いということで、非常に今後の問題になってくるのではないかと。一説によりますと、2040年にはだいたい40%が空き家になってくるということも言われています。</p> <p>しかし、経済が成り立っていかないで、どんどん新しいものを建てていく。3,000万円のマンションを建てたら、プラス3,000万円の経済活動がある、そうすると6,000万円ぐらいの金が動くということは、国自身もなかなか手が付けられないということもあるんですが、今おっしゃられたように、地方ではこういったことをどこかで対応していく必要があるんじゃないかなと思います。</p>
事務局	<p>補足ですけれども、3ページの「安全で、利便性の高いまち」の「住環境」の部門で、空き家について記載しているので、先ほどの三輪委員のご意見は環境の方でもそういう視点が必要だと。</p>
新川部会長	<p>そうですね。もちろん、安全安心、コミュニティをどうするかというのがありますし、空き家とか空きビルをもっと地域の経済のために活用するという視点も当然あります。それから、三輪委員、小原委員からもありましたように地域の環境を壊しているところもありますし、これをどのように適正に地域で維持していくという観点から考えていくのか、この後の自然環境のところにも関わってくるような、ちょっと多面的に考えないといけないことかもしれません。横串法かもしれませんけど。</p>
北川委員	<p>14ページの「就労」のところですが、「将来を担う若者が安心、納得して働くことができる環境が求められています」というところなんですけれども、若者への就労支援とあわせて、高齢者への就労支援も必要ではないかなと思ひます。貯蓄がある程度ある方は退職して年金暮らしということなんでしょうけど、団塊世代が退職して行って、働かないと食べていけないという方も今後出てくるのではないかなと思ひているんです。そういった対策は載せるべきではないでしょうか。</p>
新川部会長	<p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>ハローワーク的な仕事は国の方の分野になってまいりますので、市がどこまでをやるのか、どこまで書き込みできるのかというのは判断させていただきたいと思ひます。</p>
新川部会長	<p>でも、今お話しがあったように、就労問題は、若い世代も高齢世代も共通の大きな課題ですので、むしろ、市としてどこまで何ができるのかというのは当然検討しておかないといけないです。これはもともと職業安定行政で、国や社会保険、府の仕事であるとは言ってられない地域の事情があるかと思ひます。ここは少しご検討いただければと思ひます。</p> <p>特に枚方がどうかはわかりませんが、やっぱり、今、若い方の離職が早いですし、こういう方たちの再雇用、あるいは職業訓練も含めて考えないといけないということはずいぶん出てきていて、もちろんハローワークなんかでも一生懸命やっていますけど、やっぱり他人事ですので、やはり自分事で誰かが考えないといけないんじゃないでしょうか。ご検討いただければと思ひます。</p>
三輪信哉委員	<p>大学で学生を指導している立場から言いますと、もし、一生フリーターでいると生涯賃金は6,000万円だよ、正社員になると2億円になるよという話をいつもして、何とんでも正社員にならんといかんよという話をして勧めていくんです。いくんですけど、実は非常に厳しい状況になっていて、ますますIT化とか機械化が進んでくる、本来人間がやっていた業務が全部それののっかってしまうんですね。そうしてしまいますと、結局、非常に知能を集積させたような仕事か、あるいはそうでない仕事かに二極分化していくと非常に思うんですよね。そうしますと、新聞紙上なんかを見ても、貧富の差の拡大ということをやっていますけれども、そういうところにもおそらくコミュニティビジ</p>

	<p>ネスが入ってくるのではないかと思うのです。考えていることよりももっと考えておかないと、社会の動きは激しいんじゃないかなと、現場で教えていてそういつも感じるんですね。</p>
三輪敦子委員	<p>私も高齢者への就労支援というのは非常に大切だと思っています。前回の部会では、高齢者の健康を増進することによって幸福度やクオリティオブライフが増すという議論がありましたけれども、同時並行的に就労を続けることができる環境を整えることによって、さらに幸福度が増すのではないかと思います。</p> <p>ハローワークが国の事業ということも、ちゃんと認識していなかったんですが、例えば、シルバー人材センターのようなサービスも国の管轄ということになるのでしょうか。</p>
新川部会長	<p>いえ、あれは枚方市でやっておられると思います。</p>
三輪敦子委員	<p>枚方市でやっておられるんですね。どれくらい充実したサービスを提供しておられるのでしょうか。</p>
事務局	<p>充実というのがちょっと説明しにくいんですけども、やっぱり仕事を発注する方と、どちらかという仕事というよりは自分の持っている技量とかそういうのを社会のために役立ててもらおうという視点だと思うんですけども、そのマッチングがなかなかうまくいかないところもあるというのは聞いております。</p>
三輪敦子委員	<p>以前、東京にある会社に所属していたことがあるのですが、立ち上げ後、間もない会社で、会計をシルバー人材センターの方に頼まれていました。定年でリタイアされた男性の方が週何回か来てくださっていて、会計はその人に全部頼っていたような状況でした。</p> <p>現在でもそのようなニーズがあるのか、また十分な報酬が提供されるかはケースバイケースかもしれませんが、NPO 等を立ち上げる場合、経理関係の知識が不足していて、法人化しようにもノウハウやスキルがないといったことがしばしば起こります。シルバー人材センターというのは報酬を得る仕事の対象かと思いますが、先ほどのコミュニティビジネスともつながる部分が多いのではないかと思います。年金生活をしているけれどもまだまだ身体は動くし仕事はできる、健康作りもいいけれど、もう少し具体的な社会貢献をしたいという人にとっては、コミュニティワークあるいは社会貢献のような分野について市ができることは結構たくさんあるんじゃないかって思っています。そのあたりの視点も入れてもらえたらと思います。</p>
新川部会長	<p>なかなか現状も難しいところもあるんですけども、ぜひまたシルバー人材センターの活性化・活用も含めて考えていただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>全然関係ないことですが、やっぱり、ところどころ耳慣れない言葉が出てくるんですね。エコ農産物とか、大阪府が認定している農産物とかありますよね。なんか方々に出てくる専門用語について、どこか注釈一覧が必要なのかなと思いました。</p>
事務局	<p>編集のときには、その辺も配慮して、別で後ろに書くのか、この場所に注釈を入れるのか、もう少し気を付けてやらしていただきたいと思います</p>
三輪信哉委員	<p>すみません、横道に逸れました。</p>
新川部会長	<p>いえ、わからないことがあればどんどん聞いていただければ。</p>
三輪敦子委員	<p>14 ページにある「都市農業ひらかた道場」というのは、なかなか魅力的というか斬新な名前なんですけど、どんなことをされていて、どんな効果が上がっているものなのでしょうか。</p>

事務局	<p>「都市農業ひらかた道場」についてでございますが、農業の後継者の育成に向けまして、講義と実地研修を行っていただき、次の世代を担う農業者のソフト面の仕組みとして開設されたものでございます。平成26年4月1日に開設しまして、定員5名はでございます。教育期間は2年間で進めさせていただいているところでございます。</p>
岡田委員	<p>関連しまして、よろしいですか。知っている限りの話ですけれども、現在3名の方が勉強されています。それから、27年度からは2名の方が新たに参加されるということで、今おっしゃったように2年間勉強されるということです。2年間勉強した中で、その間に農地が提供されるということですが、これがなかなか難しいところで、まだそこが見えていないところです。新規就農助成金というのがあって、年間の金額はちょっと忘れましたが、最低限食べていけるくらいの額は提供されるということです。もちろん条件を満たす必要はあります。例えば、日雇い勤務とかそういうことはしないでくださいという条件は当然ありますが、なかなか厳しいところで、月謝が月3万円ですので、当然2年間は収入がない、逆にお支払いしなければいけない。経済的にある程度目途が立つ人でないと、今のところは無理じゃないかなと思っております。</p> <p>JAも協力させていただいてまして、入学というか、選考のときの試験官をさせていただきました。また、認定農業者さんの家の方で勉強されて実習されておりますので、その中でお付き合いもJA、当然でございますので、いろいろとお話を聞くこともありますし、JAの営農センターというのがございますので、その中で応援をいただいている業務もあるので、しょっちゅう顔は見させていただいているといったところでございます。スタートしたところですので、今後どうなっていくのかということは注目されるとこかなと思います。</p>
新川部会長	<p>後継者、次世代の農業者づくりということで、今のところ前途は少し不透明かなというお話をいただきました。でも、こういう取り組みをやり続けないと、枚方の農業はだめになってしまうということがありますので、ぜひしっかりやっていただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>農業というところでいうと、営利的な農業ではなくて、市民ふれあい農園というのが枚方市で展開されていて、市内33カ所、1,108区画あると書いてありますね。随分盛んだなという感じがするんですね。やっぱり、どうしても環境サイドからしますと、ドイツのクラインガルテンを魅力的に思うのですけれど、先ほどの空き家の話もリンクするとも思うんですが、もう少し身近なところで、ごくささやかに有機菜園とかがもっと広がっていくこともいいのかなと。そういう書き込みは、全体ではちょっと見えなかったなと思ひまして。そういうことをどこかに書いていただけたらと思います。</p>
新川部会長	<p>市民農園、どこかに書いていませんでしたでしょうか。</p>
加藤副部会長	<p>枚方市内で耕作されていない土地、耕作放棄地ってあるんですか。</p>
事務局	<p>数字的なものは、正確には今は申し上げられませんが、一般的に耕作放棄という状況にある農地はあるという認識でしか、今の時点ではお答えできないんですが、次の審議会に向けて資料の方をご用意させていただこうと思います。</p>
加藤副部会長	<p>後継者不足というのはどこでも同じだと思うんですけど、それと新規で営農されるときのマッチングみたいなことをこれで図ろうとしていると思うんですけども、そこをもっと推し進めていくためには何ができるかということを考えないといけないということですよ。</p>
岡田委員	<p>今の市民農園の件ですけれども、実は枚方市から委託を受けまして、農協の方で市民農園の運営をさせていただいております。長い歴史の中で、農地の所有者はJAの組合員さんですので、例えば病気をされて耕作できなくなったり、あるいは亡くなられて後継</p>

者が女性であるため耕作できないというケースがございます。それで、農地は一度荒らしてしまうと、また開墾しないといけないということがございますので、後継者が育つまで、農地として守っていききたいということで、市民の方にお繋ぎをしているということです。日々の管理につきましては農協の方で市から委託を受けてさせていただいているといったところです。日々の作業はすべてJAで請け負っているというところですね。今のところは、市民の方、契約者が野放しで何を作ろうといいですが、体験型農園というのが今の流行で、種や農業資材、プログラムもすべて管理者が用意をして、年間5~6万円以上はするんですけれども、それなりの作物を持って帰れるし、毎日のように遊びに行ってもいいみたいな、そういった農園が流行ですので、将来的にはそういった形にもなるようにJAの方も検討中です。

それからもう一つ、耕作放棄地対策ですが、もともと、JAは農業をしてはならないんですね。農業者の商売敵になれないわけですから。バックアップをすることはできますが、農地法が改正しまして、JAも農業ができるようになりましたので、新たにJAで農業をしましょうということで、別に売上がほしいとかそういったわけではないんですが、耕作放棄地が発生しないように農業を守っていききたい、地域の農業を守っていききたいということで、もちろん後継者が育つまでという限定ですが。もちろん今の「都市農業ひらかた道場」の中で、新規就農者を育てるというところにマッチングさせていきたい。そういうことも考えた中で事業として経営していくことを検討中で、監督官庁、大阪府と相談をしているところです

宮原委員

13 ページの「観光・交流」のところに、「東部地域の自然などの貴重な観光資源を活用しながら」という記載があるんですけど、それと15ページの「自然環境保全」に、「里山などの豊かな自然空間を保全・継承していくため」とあるんですけども、東部地域に住んでいて、いつも里山を訪ねている立場から見ると、里山は荒れ放題です。「にほんの里100選」に選ばれたことを知らない市民がほとんどです。「にほんの里100」選に選ばれたのは素晴らしいことなんですけど、1歩中に入ると実態はすごく荒れています。行政も、里山みどり課などがすごく力を入れてくださって、それからNPOも入って、里山をハイキングしたりとか、いろいろな行事が組まれています。スケッチ大会が開かれたりもしています。選ばれているんですけど、世界の人が日本の素晴らしい景色があるとか言って訪ねて来るほどの観光資源ではなく、本当に荒れている。だから、ただ緑を保全して継承していくためにとか言っているくらいでは、とても追いつかないくらいじゃないのかなということで、非常に懸念しています。里山を守るためには、もう1歩踏み込んだ、強い行政力と市民の力が必要ではないか。通り一遍のようにしか書かれていないような印象を受けます。

三輪信哉委員

同じ意見でございまして、環境審議会の方も携わっているんですけど、いつもこの穂谷地区の里山の話というのが出てくるんですね。それくらい自然系の方々、環境系の方々、この穂谷という土地が壊されていくことに危機感を持っておられる。だけど、民間の土地であるがゆえに放っておくことができなくて、住宅やアパートがどんどん蝕んでくるという状態で、もうほとんど絶滅危惧の状態に至ってきているんです。今おっしゃっていただきましたように、大阪府内で「にほんの里100選」に選ばれているということは、やっぱりすごいことですが、その位置付けは、どうしても行政が及び腰になっているように感じているんです。この里山がなくなってしまうと、おそらく府内でも里山と呼ばれているところはなくなってしまうのではないかな。もちろん、能勢とかそこら辺の山奥でもよろしいんですが、その能勢の方の里山が選ばれなくて、ここが選ばれたすごさをいつも感じるんです。ですから、環境のことを考えますと、もっと強く主張されていくべきだし、もっと保全し、改善し、人が集まって見たいくなるように、重要な資源をさらに磨いていくべきだといつも思うんですね。もったいないと思っています。

加藤副部長

里山がなくならない方がいいとみんなが思うのであれば、どこをどうやったらうまくいくものなんですか。

三輪信哉委員	<p>やっぱり、その土地を持っている所有者の方々の権利というものがございまして、そして、相続税の問題とかで土地の切り売りとかに規制をかけていくということができていないということでしょうか。その辺について、合意形成を巧みに誘導しながら強力な枠をはめるところまでもう少しやってくれたらなと思います。</p>
加藤副部長	<p>それは、行政がやるというのあれば、商店街も同じ問題があるんですよ。つまり、店がやめたときに、次の業種をみんなでどうやってコントロールしていくかという問題があるじゃないですか。商店街全体で言うと、こんな業種にきてもらえたら集客力が上がって、利用する側からするとものすごく便利になると。個々の家主と新しく入ってくる買主とだけでは賃料だけで決まってしまうので、ぐちゃぐちゃになっていくんですよ。</p> <p>今日たまたま来られていた静岡県の呉服町というところは、ランドオーナー会議というものがあるんで、できるだけみんなで業種は守りましょうと、最初に、商店街に空き店舗になることとか、あるいはどんな業種に来てほしいとか、考える場をつくろうとしている。たぶん行政が背後で支えていると思うんですけど、主体はあくまでも商店街。同じようなことで言うと、やはりランドオーナーというか、その人たちと、市民の力なんじゃないかな。そこを今やらないとね。</p>
宮原委員	<p>私は里山の持ち主なんですけど、終戦後の写真を見ると素晴らしい。ありとあらゆるところに棚田があり、綺麗に耕作されています。そして、竹なんかははびこっていません。それで、地主が耕作しなくても食べられるようになって、ほったらかされて荒れてしまったということじゃないかと思ってみているんですけどね。地主さんが苦勞して、薪だって焚き木だっていらぬわけですから、結局里山に入らぬわけですよ。だから荒れに荒れていっているという感じ。そこをどう保全していくというのはわからない。</p>
加藤副部長	<p>なんか手法はありそうですけどね。昔の綺麗な写真をもっと大々的にみんなに見せるとか。市民の認識をどうやって高めていくかになるんですけど。でも、言っている間にどんどん朽ちていくわけですから、それを止めるために具体的な施策を考えていかないと。</p>
三輪信哉委員	<p>先ほどおっしゃった、もっと強く書かなきゃだめというのはその辺でしょう。このまま放っておいたら、本当に今のままの流れで、やがて消えて、「にほんの里 100 選」から外れる日も遠くないということになる。</p>
三輪敦子委員	<p>「大学連携」のところで、具体的な事業例として「学生ボランティア活動の推進」が挙がっていて、主な取り組みとして「学生のまちづくり活動への参加の働きかけ」と記載があるのですが、何か具体的な案をお持ちでしょうか。何かアイデアをお持ちなら伺いたいと思います。</p>
事務局	<p>「大学連携」の部門にこういう内容で記載させていただいているのは、この審議会の前に、まちづくりワークショップでいろいろな意見をいただいたのですが、その中で、せつかく 6 大学があるので、その学生さんにまちづくりへ参加してもらえないかというようなご意見がたくさん出ておまして、そのような意見を受けて記載させていただいているんです。じゃあ、具体的に自治会活動に学生さんが入っていけるのかどうかとか、そこまでは、まだよく考えられてない。</p>
宮原委員	<p>私の住んでいるコミュニティは参加していただいています。</p>
三輪敦子委員	<p>どちらの大学ですか。</p>
宮原委員	<p>大阪国際大学です。校区の中にあるんです。枚方市の 45 校区の中の 1 つのコミュニティなんですけれども、夏祭りだろうが、体育祭だろうが、一部の学生ですけど企画から参加してもらっています。日常からコミュニティの定例会にも出てきて、自分たちの意見も言いますし、1 年間で終わるころには、毎年違う学生が関わってきますので、自分</p>

	<p>たちが感じたこと、得たこと、気付きやなんかを、自治会長や各種団体、60人くらいですが、その前で発表しています。</p>
三輪敦子委員	<p>それはすごいですね。それは大阪国際大学の特定の先生との連携ですか。</p>
宮原委員	<p>あるゼミがまちづくり論をやっていたんですね。その先生が働きかけて、地域に出ていらして、私たち地域が受け入れて大歓迎すると。大学のある校区を通学のためにただ素通りしている地域ではないと。このまちに大学があったら、あなたたちもこのまちの人だったんじゃないかという受け入れ方をして、各自治会にそのように啓発していきました。</p> <p>しかし、他の校区が自分の校区の大学に呼びかけたら、研修やなんかでとてもそんな暇はありませんって言われたとか。大学によってもいろいろだったみたいです。</p>
三輪敦子委員	<p>何かやるには、熱意のある先生か、熱意のある大学のコミットメントが必要ですね。場合によっては市と大学が協定か何かを結ぶといったことが必要になるかもしれません。</p>
宮原委員	<p>協定も3年間だけ結びました。</p>
三輪敦子委員	<p>関係と受け皿を明確にされたわけですね。それはすごくいい成功事例ですよ</p>
宮原委員	<p>おもしろかったのは、コミュニティ協議会として協定は結ぶことはできなかったんです。NPO 法人としてまちづくりをやっているところしか協定を結べないという大学だったので。たまたま私の校区コミュニティが NPO を法人化していたんですね。だからうまくマッチングして、協定も3年間だけ結びました。3年間で終わるのかと思っていたら、学生の後輩たちが続けてくれたのです。</p> <p>社会人の人たちと接して話をする機会がなかったので、先輩たちを見ていたら、大きな力になっていて続けさせてくださいということで。それで、今も続いています。</p>
三輪敦子委員	<p>ぜひ、成功事例としてご活用なさって、ほかにも広がっていくといいですね。</p>
新川部会長	<p>こういう取り組みがどんどん広がっていくといいですよ。</p>
宮原委員	<p>彼らと接しているとおもしろかったですよ。</p>
加藤副部会長	<p>今の場合は、ゼミの活動としてそこに参画しているという感じですよ。</p>
宮原委員	<p>最初は、まちづくり論をやっている先生がお尋ねくださいましたけど、後からは、そのゼミからは離れて、「ひと・まち・つくるプロジェクト」というグループをつくって参画しています。</p>
加藤副部会長	<p>学生サークルみたいなものですね。</p>
宮原委員	<p>はい、そうですね。</p>
加藤副部会長	<p>以前聞いた話ですが、滋賀県立大学は、そういった取り組みにお金を出すんですよ。学生がまちづくりに参画したいとなった場合、例えばこのくらい費用がかかる、あるいは改装するとそれに対して大学からお金が出て、たぶん1,000万円か、それ以上の予算を出しているんですね。</p> <p>今度は行政の方で言うと、例えば、まちづくりの課題みたいなことがいっぱいありますよね。たぶん、部局の中でもいろんな課題があると思うんです。その課題を発表して、学生がそれを受けて、そのテーマについて何かやるというものを制度化しているところ</p>

	<p>もあつたりするわけです。そこまでやればすごいなということになってきますよね。場合によっては、行政の課題を誰かが解決してくれると。じゃあ、そのために予算があるのであれば、ある程度なんかやりましょうということになったら、枚方はそういう制度をやることによって、地域の大学とうまく連携していることを打ち出すことができますよね。これは、九州の大学でやっているプログラムなんですけどね。</p>
三輪敦子委員	<p>最近、小学校から私立の学校に行くお子さんが増えていて、個人的な感触として、まったく地域のイメージがつかめないまま成長している方がたくさんおられると感じています。そして、傾向としてしか言えないですけど、いわゆる成績志向が強い方に、そうした傾向が強いと思い、そういう傾向には危惧というか懸念を感じています。その観点からも、大学生に地域と密接に関わる経験を積まれるのは、すごく大切なのではないかと思います。</p>
宮原委員	<p>就活の面接にとっても役に立ちましたとか、学生たちが言ってきたりします。</p>
三輪敦子委員	<p>プロフィールにどんどん活用してもらえればいいわけですよね。</p>
宮原委員	<p>私も大学生から聞いて知ったのですが、全国でいろんなフォーラムがあるんですね。そしたら、そのフォーラムに発表するまちづくりに関わる課題を自分たちで見つけて、それを発表して賞を取ってきたりしていて、学生の方から取れましたと言ってくれる。地域も親じゃなくて乳母になった感じで喜んじゃいます。</p>
新川部会長	<p>そういうよい関係ができるといいですね。両方が得するような。</p>
宮原委員	<p>発表の前に訪ねてきて聞いてくださいというので、地域の人を10人くらい集めて聞くんです。</p>
三輪敦子委員	<p>素晴らしいですね。</p>
宮原委員	<p>こちらも勉強しています。そういう学校も出てきているので、働きかけていったら、全然ゼロにはならないと思います。</p>
新川部会長	<p>積極的に次の施策に入れていっていただきたい。</p>
新川部会長	<p>ちょっと時間も押してきましたので、さっき里山の保全の話、環境資源としてもとても大事だけど中身がないよということでこれをなんとか整備をしたり、活用したり、守っていかないと、という話をいただきました。</p> <p>「自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち」、こちらの方を進めてまいりたいと思います。お手元の資料で言いますと15～17ページ目になりますが、こちらはいかがでしょう。里山の話に戻っていただいても結構です。もちろん、「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、こちらで、もっと言い足りなかったということがあれば、戻っていただいても結構です。環境の方の意識の方がおられればよろしくお願いします。</p>
加藤副部会長	<p>先ほどの議論からすると、このことも何かさっき議論したようなイメージがあって、要するに環境そのものを保全するというのも、まあ、いろんなやり方があると思うんですけど、何かそれを、観光、あるいはビジネスと結び付けて保全するとかですね。あるいは、教育と結び付けて保全するとか、何かそういう関連の中で出てきているなど。この部門は典型的に横串が刺されているんだなと改めて思いました。</p>
新川部会長	<p>ぜひ重点化の1つのポイントに。</p>
宮原委員	<p>ちょっと教えてほしいんですけど。16ページの「ごみ減量・資源循環」なんですけど、</p>

事務局	<p>「行政の主な取り組み」に、「京田辺市との広域連携による新たなごみ処理施設の整備」とあるんですが、東部に作った清掃工場以外に、また建設する予定としてあるのでしょうか。</p> <p>枚方市には、今おっしゃった東部の方に1つございます。もう一つは、昭和63年くらいに穂谷川のところに造った施設があります。これは老朽化が進んでおりますので、後継施設が問題になっていたんですけれども、同じように京田辺市の方も枚方の東部にくっついている甘南備園というところに炉がありまして、こちらの方も非常に老朽化が進んでいて、向こうも建て替えが必要だということで、今回は一緒に京田辺市側で建てないかという話をしているところです。だから、今、穂谷川清掃工場の後継施設を検討している。</p>
宮原委員	<p>京田辺市側の方にも造られるのですか。</p>
事務局	<p>最初は京田辺市に造って、次は枚方市でという話を進めています。</p>
三輪信哉委員	<p>もちろんすでに織り込み済みかとは思いますが、ごみ処理施設で発生するエネルギー回収とか、高効率のゴミ発電とかですね、その辺はちょっと意識されるとよいと思います。</p> <p>それから、地球温暖化対策のところで、HEMSとかBEMSという言葉がありますが、ホームエネルギーマネジメントシステムとか、あるいは事業所もそうですけど、トータルのエネルギー関連をコンピューターを使って制御して行って、適正管理していくという取り組みがありますが、市の関連する施設でも積極的に進めておられるのでしょうか。駅前開発がどんどん進んでいる中、あまり環境のことがキーワードとして浮かび上がってこないんです。ですので、新しく建てる施設があればなおさら強固にそういったエネルギーマネジメントシステムを導入して、省エネタイプの建物にしていくというのは、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>あまり詳しくはないですが、今おっしゃったような指標について、当然その最低レベルのことはクリアしているのですが、どこまでその上をやるかということについても、ごみで言いますと、今、先ほどありました東部清掃工場というのは、最高レベルのものをというコンセプトで造ってしまして、確か相当な額を収入として得るぐらいの発電をやっていると思うんです。</p> <p>今おっしゃっていただいた、ちょうどこのラポールひらかたの隣に、大ホールに代わる施設を新たに造ろうとしていますけれども、それにつきましても、環境レベルを当然配慮したものを造るというのは整備計画の中に入っておりますし、どこまでやらないといけないのかというのがうまく説明できませんけれども、当然、環境というのは頭に入れてまちづくりをしております。</p>
三輪信哉委員	<p>世界全体の共通の認識で、IPCCが出しているような将来予測を見ると、かなり危機的な状態というのが現実化しそうで、今後、地球人が20億人増えますから、そこで生活スタイルが日本に近づいてきますので、これは、エネルギー問題とか、地球温暖化問題というのは、今意識しているよりもっと緊迫した状態がこれからすぐ出てくるだろうなと思うんですね。そうしたときに、ここだけが肥大化してもいけませんけれども、もう少し強く書いていないと、総合計画の方はスパンが長いので、そういう意味では力強く書いていただきたいなと。私個人の意見ですが。</p>
新川部会長	<p>少なくとも、公共施設の最高レベルの省エネ化とか、そういうことは考えていただかないといけないでしょうし、そこまでいかにくとも、スマートグリーン、HEMSなどを取り入れれば当然そうなるでしょうが、それくらいのことは考えておく必要があると思います。</p> <p>それを行政の施設だけではなくて、市民、家庭ですが、民間にも広げていくという環</p>

	<p>境管理の考え方のようなものを積極的に進めていただくと、地球温暖化問題も、ごみの問題も、そして生活環境の問題も解決できるかもしれません。</p>
宮原委員	<p>「生活環境」で、水のことがふれられているんですが、テーブルの上においてあるこの枚方のお水は、三重県から運ばれてくるんです。それってどうなんだろうといつも思うんです。一旦、アイデアが出て、枚方市内で業者さんが見つからなくて、請け負った業者さんが三重県だったということで、お水を一旦運んで、またこちらに運んでいる。</p>
新川部会長	<p>原水はこちらで取って、それを三重県の業者でボトリングをしてもらって運んでもらっているのですか。</p>
宮原委員	<p>コストはいったいどうなっているのか。</p>
事務局	<p>残念ながらこれは製造中止に。</p>
新川部会長	<p>製造中止ですか。</p>
宮原委員	<p>その方が納得。</p>
事務局	<p>在庫がある限りということになります。</p>
宮原委員	<p>これが、いつもいろんなところで不思議だなんて言われていました。</p>
事務局	<p>本市の浄水場で高度浄水処理をした水を三重県に運びまして、そこで製品化してこちらに持ってくるということになっています。1本当たりの単価が非常に高いということもありますので、備蓄水の関係は、府営水、府の企業団の水もごございますので、今後、本市としては、今ある在庫分で最終的には終了するというような話になっています。</p>
宮原委員	<p>在庫処理中だから、防災訓練をするときに水くださいって言ったら、ないって言われましたが、そういうことでしたか。</p>
小原委員	<p>まち美化とか景観のところ、行政の取り組みというか、褒めるということはできませんか。枚方には500ほど自治会があるが、このまちはきれい、この自治会は電信柱がきれいとか、ごみが落ちていないなど具体的に褒めていく。あなたのまちは本当にきれい、あなたのまちは1番という形で褒めていくという方法をとれば、もっと関心が出てくるのではないかと思います。</p>
新川部会長	<p>さっきの「にほんの里100選」と一緒ですよ。「枚方100選」みたいなものをどんどんつくって、賞状やプレートなんかを出していくといいかもしれませんね。</p>
宮原委員	<p>地域から申請すれば、清掃とかいろんな意味でボランティア活動をした人に対して市長さんから表彰式はありますけどね。</p>
新川部会長	<p>きれいになった地域を褒めてあげるといいのがあってもいいですよ。</p>
宮原委員	<p>人を褒めるんじゃなくて地域をね。</p>
三輪信哉委員	<p>まちが美しいというのは、結構、人が寄ってくるのではないかなと思います。例えば、私の大学がある吹田市ですと、北部に千里ニュータウンがあって、すごくよく整備されていて、例えば、ある道路にトウカエデがずっと生えているところがあって、秋になるとたくさんの人が見にくるんですよ。それで、そういう趣のある空間を求めてどんどん人が入ってきて、どんどん地価が上がっていくんですね。だから、美しいまちに住み</p>

	<p>たいというのは結構潜在的にあるんじゃないかなと思うんですね。そういう意味では人を呼び込む戦略の1つにもなっていけばいいなと思ったりします。</p>
新川部会長	<p>「枚方美しいまち100選」の表彰をやりましょう。</p>
宮原委員	<p>枚方の地名は結構美しいんですけどね。川なども天野川とかがあって。</p>
小原委員	<p>枚方市に「褒める課」っていうのを作ってください。</p>
新川部会長	<p>褒めないで市民のやる気が起こらない。  それでは、また自然のところ、それからその前の活力のところに戻っていただいて結構ですが、少し行政運営のところに入りたいと思います。行政運営のところは、「市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進」ということ、それから「効率的な市政運営」、そして「広域的な連携と地方分権の推進」、大きく3つの分野に分かれています。これにつきましてご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
三輪信哉委員	<p>この「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところは全部ハイフンになっているんですね。これはどう考えればいいのかちょっとわかりませんね。行政側からのベクトルが市民に向いているのか、向いた先を受けての市民がどうベクトルを返してくるかというところ、双方向化かな。何かを意図して、これからうめていくということですか。</p>
事務局	<p>行政運営の欄でございますが、今後皆さんがまちづくりを進めていただくにあたって、いわゆる行政体が下支えとしてやっていく推進姿勢をこの欄にまとめさせていただいているところでございますので、1番右の列につきましては、今の時点では空欄にしています。  ただ、前回、第2部会だったかもしれませんが、いわゆる市政に関心を持つということは、行政運営でも必要ではないのかというご意見がございましたので、こちらで案で示させていただいているのは、そういった趣旨で今の時点で記載させていただいているものです。</p>
新川部会長	<p>むしろ、どんどん私たちから提案をして書き込んでいってもらってもいいかと思えます。こんなことを市民が主体的にやったらいいですよという案があれば。</p>
宮原委員	<p>ちょっと妙なことを聞いていいですか。小中学校の建物は枚方市のものでしょうか。</p>
新川部会長	<p>はい、私立以外はそうです。</p>
宮原委員	<p>私の地域の中学校において、水道から直に水が飲めないという事態が生じているんですね。部活をやっている、体操をやっている、暑ければ当然水が飲みたくなると思いますが、校庭にある水道は直接飲めないと校長先生がおっしゃるんですね。なぜかと聞いたら、水道のタンクがあって、それが古いんだか何だか知りませんが飲めない。直接飲めるのは校庭の隅っこにある水道管1か所だけ。全校生徒が校庭の隅っこにある水道から飲むというのは設備上まずいので、教育委員会の管理部署に言って、直してもらったらどうかって言っていたんですが、何年もそのままになっている。そういうのは、「市有財産管理」に入るのでしょうか。関係ないのでしょうか。</p>
事務局	<p>少し古い学校施設等に見られまして、一旦、上の給水タンクの方に水を上げて、そのあと自然流下で水を下ろしてくるという形になりまして、いわゆる給水管が古いと、錆等があったり、給水管の距離が長いと塩素が抜けたりということもございますので、そういう状況があって飲めないということになっているのか。その飲めない理由がわからないんですけども、例えば、塩素が足りないとか本当に物理的に飲めないのか、それとも、飲むと鉄の味がするのかな、いろんな要因が考えられると思うんです。それで、直</p>

	<p>接飲める水道が1本あるというのは、たぶん直結給水管があると思います。それは最近設置されたもので、安心して飲んでいただけるということになるのかなと思うんです。具体的な対策としては、やはり健康上の問題もありますので、本当に飲用に適さないのかを含めて、総合計画でもございますけれども、上下水道局の方に調べていただき、早急に対応する必要があると思います。</p> <p>いわゆる水の関係は、先ほど委員の方からもありました、前の方にも少し載せているんですが、行政運営の部門ではなくて、「生活環境」のところで、安定的に供給し健全な水循環を維持することが求められているということで、安全安心な水を市民の方に供給するという内容で記載させていただいております。</p>
事務局	<p>補足ですけれども、今おっしゃったように、枚方の場合は、昭和40～50年代くらいに学校施設がたくさん建てられていて、それが全部古くなってきているということで認識しております。それらは、計画的に建て替えなり補修なりをしていかないといけないという認識で市有財産管理に記載しています。</p>
加藤副部長	<p>市民活動の支援なんですけれども、たぶん校区コミュニティ協議会の支援とかいくつか書いてありますが、今回、市民の協働をさらに強く言おうとしているわけですね。今までやってきたことに対して、何を強く打ち出していくのかというのは、ある意味で目玉があると思うんですけれども、この中身は今までと同じなんですか。それとも今回特にこういう感じで取り組んでいこうというものがあるんですかね。実態をよくわかっていないので。</p>
事務局	<p>今はまだ書けていないと思うんですけど、書きぶりとしては先ほど少しお話がありました「学生のまちづくり活動への参画の働きかけ」というところは、今まではこういったものはあまり書いていなかったのではないかと。具体的に校区コミュニティ協議会の支援と書いてありますが、具体的には何をやるんだというところまでは書ききれていないというところですよ。</p>
加藤副部長	<p>先ほど、シルバー人材センターの話がありましたが、市民の困りごとというか、いろいろときれいにしたいんですが自分ではなかなかできないと。それをシルバー人材センターの方をお願いして、安くできたらお互いによい。地域にお金も回るし、みたいなことだと思うんですけれども、これは市がそこに関わって、シルバー人材センターに入る人も、そこに頼む人も多くなっていくような、そういう仕掛けとか仕組みというのは何かされているんですか。特にそれはないですか。市民からすると安かったら頼むかと、そのかわり文句とかいろいろ言われるかと思いつつ頼むんですかね。</p>
宮原委員	<p>市民が頼む場合は、自分の家の植木の剪定とか最初は頼むんですけど、だんだん頼まなくなってきている例も見聞きしています。なぜかという、シルバー人材センターにお願いすると、安いんだけど刈った植木は持って帰ってくれない。その始末に大変な思いをする。ごみの日に出せるのは、1軒当たり45リットルの袋で1回3個まで。植木の剪定をすると、とても1回3個の袋に入り切れるような量ではないので、何回にも分けて出さなきゃいけない。かえって手間がかかるので、少々高くても植木屋さんへ頼んだ方がよかったかなという声は地域からよく聞きますね。</p>
加藤副部長	<p>なるほどね。そうか、市が優先的ではないですが、シルバー人材センターだったらそれを新しくどこかで対応してあげるとかそれはなしですね、民間事業者を圧迫しますか。すごい量出ますもんね。</p>
宮原委員	<p>すごい量ですから、木1本切っても45リットル3つくらいは出ます。</p>
加藤副部長	<p>そうするとみんな植えなくなりますよね。</p>

宮原委員	根本から切っちゃう家が多いです。
加藤副部長	そうすると美しいまち並みに反しますよね。それこそまさに政策的にやらないといけないところですね。
新川部長	庭木の緑を守る条例とか。全国的には類似のものがあり、そういう生垣とか庭木とか補助をされているとかなくはないですよ。
宮原委員	枚方市も生垣にしたら補助が出ますよね、たしか。
加藤副部長	それと、病院に連れて行ってほしいとか、そういう細かいニーズってこれからますます高まってきますよね。それはどこで対応しようとされるわけですか。まさに市民協働というか、どこかで対応する部分があるとは思んですけど。
宮原委員	今のところ地域包括支援センターで、介護保険を使ってのヘルパーさんの援助をどこまで受けるかじゃないですかね。
加藤副部長	それはまあ限度がありますよね。そこまでいかないような細々としたちょっとした困りごとですね。この辺はどうするか。
宮原委員	民生委員が引き受けている場合もありますし、枚方市に 45 の校区福祉委員会があって、その福祉委員会の活動に年間 50 万円の活動の補助金が出ていて、その中に個別援助活動とグループ援助活動というのがあって、その福祉委員会の中の個別援助活動としてそういう方に対応している校区もあれば、車を運転すると事故でもあればいけないのでとてもそこまではできません、グループ援助活動とお買い物にメモされたものだけ買ってくる個別援助活動で終わっている委員会もあり、45 校区それぞれですね。私はこんな性格ですので、校区で送迎ボランティア活動を始めています。
加藤副部長	だから校区によってばらつきがある。でも、それは困ったもんですね。
新川部長	そういう新しい活動がいろんな校区でどんどん競争するような状況が出てくるのはそれはそれでいいですよ。
宮原委員	競争するよにといいると、ますます全員しんどくなる。競争じゃなくて互いに支え合うというシステムがごく自然にできてくればいいんですけど。高齢者であってもご自分が元気なときは、そんなことをなぜしなきゃいけないっておっしゃいますし、弱った途端にそんなシステムがあったはずだと権利を主張してくるのが常でして、そこに戸惑っています。これ以外でも枚方市の方で福祉計画とかいろいろありますけど、最近、すべてに「市民と市民団体、事業者とともに」という項目があって、市民はどうしようかとコミ協や連協の会長さんと話しています。
小原委員	褒めてください。
宮原委員	市民全体で、枚方市民となった以上、お互いに支え合うまちなのよとなってくれたら理想ですけどね。結構見識の高い方が多く住んでらっしゃるような気がしまして、ご意見はおっしゃるけど体がね。
小原委員	やっぱり、褒める課がいますな。
宮原委員	1 番最初に褒めてほしい。
新川部長	その他、効率的な市政運営、あるいは広域的な連携で何かございますでしょうか。

三輪敦子委員	<p>「市有財産管理」というか、市有財産の効率的・効果的な活用ということでは、これから統廃合が進むことが想定される、小学校、中学校の校舎の有効活用を、ぜひ、革新的な形で1歩前に進めていただけたらと思います。</p> <p>他の委員の方もおっしゃっていましたが、妊娠時からの切れ目のない妊娠、出産、子育てへの支援と、それから高齢者への支援の全部トータルに、つまり生まれる前から高齢者となるまでの生活の結節点として小学校を位置付けるのは、非常に有効ではないかと思っています。斬新で革新的なプランができれば素晴らしいと思います。</p>
宮原委員	<p>そういう対象者が、1つの流れとして枚方市内で行われていることが見えていないんじゃないかな。妊産婦の人を対象にしたことは保健センターでやっていますし、生後4か月もこんにちは赤ちゃん事業でやっていますし、1歳児3歳児とかもやっている。それで0歳児を対象にした子育てサロンがあり、1歳から3歳、未就学児は、45校区ほとんどの福祉委員会がサロンを開いています。だから、0歳児をその地域の子育てサロンにつなぐということで、私、民生委員児童委員協議会の委員ですが、そこでやっている0歳児のサロンに参加した人は、身近な担当の相談員としての名簿をわたしまして、地域でやっている子育てのパンフレットを子育て支援室と協力して作って、対象者全員に配布している。だけど、先生がおっしゃったように一貫した流れを知らない。毎回参加者に、こうなっていますよ、こういうところがありますよっていちいち説明しないと、「広報ひらかた」も予防注射などの情報は必要な場合に見るけど、その一貫した流れの説明がないから見えていないのかなと。枚方市は結構充実されていると思うんです。だけどそれが市民に見えていないとしたら、残念なことだなと。見える方式をどこかでとっていただけたら活動している方も嬉しいです。</p>
加藤副部長	<p>ゆりかごから墓場まで、コンセプトとしていいんじゃないですか。</p>
新川部長	<p>それだけじゃなくて、ゆりかごから墓場までを見える化する。</p>
三輪信哉委員	<p>情報発信というところで、新たなアイデアでおっしゃいましたことをやはりどこかでわかりやすく入れておくべきですよ。断片的にいっぱい情報発信されているけれども、市民からすると何がどこにあるのかわからない。</p>
宮原委員	<p>窓口ごとに分割してすべてが載っているんで、一貫した流れが見えないのかなと。</p>
加藤副部長	<p>枚方の広報は、比較的、伝統的な内容、オーソドックスなやつですか。</p>
宮原委員	<p>いえ、何年かおきに紙面が見直されて改革されてきて、見やすくなってきています。</p>
加藤副部長	<p>見やすくなっているけど、おもしろくはないですか。</p>
宮原委員	<p>情報としてはいっぱい載っている。</p>
加藤副部長	<p>だいたいそうですね。大阪市の区の広報ってありますよね。最近、かなり斬新なものになってきているんですよ。この前は3.11の時期だったので、3月は最初の表紙がそれなりにインパクトのあるものになっているんですよ。それで中身は、2面くらいまではテーマ型にしていたりとか、なんか広報というイメージじゃないんですよ。</p> <p>これまでの広報ってなかなか見ないでしょ。</p>
小原委員	<p>ただ、枚方市では、行政の行っていることを何から知りますかというアンケートをすると、広報が約90%、われわれが携わっている回覧板とか掲示板が約30%、ただ見る人だけの話ですが。</p>
加藤副部長	<p>70%くらいの方は、ひょっとしたら広報は見えていないかもしれない。</p>

小原委員	そういうことではなくて、どこからその情報を得ましたかということです。
加藤副部長	見る人ですよ。見ている人が何パーセントいるかというのが聞きたいですよ。
宮原委員	全戸配布されている割には残念だなと思いますね。私たちはこういうことに携わるようになったから見るようになりましたが、もし携わっていなかったら、見てなかったかも思っちゃうときもありますね。でも、見だすと、こんなこと取り上げているとか、ちょっと情報がほしくて隅から隅まで見たりすることもある。
加藤副部長	情報発信についても、広報というのは、市と市民をつなぐ非常に重要な媒体なので、もっとそこに力を入れておもしろくするとか、やった方がいいですよ。これは簡単にできますよね。
小原委員	簡単ではないでしょう。
宮原委員	読む側の姿勢にある。
加藤副部長	50～60歳くらいの方はほっておいても読むんです。20代、30代、40代など、若ければ若いほど読まないですよ。
宮原委員	30代、40代は子どもの予防接種など、いろんな情報がほしいのでそこだけでも読むんです。結構気を付けて読んでいると、その時々情報が載っていたりしています。苦労しているんだなって見えていますけど。
三輪信哉委員	<p>最近の20代は全部スマホで済ますという時代が遠からず支配的になってくると思うんです。ひょっとしたら広報とか回覧板とか朽ち腐れる時代が、あと20年くらいしたら確実に来そうですね。学生たちの行動パターンを見ているとスマホ以外は何も見ない。コンピューターも触らない、スマホで全部済ます。卒業研究もスマホから打ってくる。そんな時代になっていますので、だいぶ大きく変わるんだろうと思います。</p> <p>でもそれだけにキャッチ能力はすごく高まっているかなという感じもするんですね。例えば、ちょっと若い子が子どもを産んで、親が近くに居ないので全部スマホで調べて、育て方を全部スマホから学ぶ。そのときもちゃんと情報を見抜く力も備えていて、くず情報を選び分けるのもできるようになってきていますから、時代も変わってきているんだなと。</p>
宮原委員	選り分ける力も自然に生まれているんですね。いらなくなるのか。
新川部会長	それが使えない人もいらっしゃる。
小原委員	結構多いです、使えない人も。
宮原委員	地域活動をしていると怒られます。ホームページを見てくださいとか、メールで発信しますなんて言うと、冗談じゃないと怒られます。
三輪信哉委員	先ほど、三輪敦子委員がおっしゃいましたが、小中学校の有効活用という意味は、前にも申したと思いますが、防災拠点とか、観光拠点とか、あらゆる意味で有機的に拠点となりうるんですが、そうしたときに、「市有財産管理」の部門で「小中学校の有効活用」がどこかに入っているといいのではないかと思います。
三輪敦子委員	これまでの議論の中で、何回も横串という言葉が出てきていますが、具体的な行政運営の議論に入っていくときに、横串というのが非常に大切になってくるのではないかと思います。横串が大切なことは言うまでもないのですが、ただ、それを具体的に

	<p>どう推進していくかは、困難もたくさんある課題だと思っています。そのあたりは 19 ページの人材育成のところでも多少触れられているのかなとは思いますが、横串を具現化するため、横串が刺せる体制を実現するために、何が必要かを明確にする必要があると思います。意識、研修、トップのリーダーシップ等、様々なことが求められるかと思いますが、そうしたことも記載すべきかと思っています。書くだけではなくて実際にやらないといけないんですけど。</p>
加藤副部長	<p>現在、部局間の連携みたいなやつはどういう形で行われているんですか。今の施策でも複数に跨っていることは間違いないですよね。そういうとき、実際にはどういう形で連携されるんですか。</p>
事務局	<p>大きく分けたら 2 つあります。一つは、部長の上に理事という職責がありまして、その理事がいくつかの部を担当して、その連携を取り仕切っていくというやり方と、もう一つは、プロジェクトか何か事業があった場合、枚方市はその関係部署が集まって委員会を設置しまして、この総合計画もそうですが、各部署の代表が集まってきてそこで話をするという、大きく分けて 2 系統でやっています。</p>
加藤副部長	<p>それで情報の共有は行われますよね。ただその前の段階で予算は決まっていますよね。</p>
事務局	<p>まあ、例えば総合計画なんかでしたら予算を立てる前にこのようにやっていきます。先ほども言いました、ラポールひらかたの隣に大ホールの代わりの総合文化施設を建てますけれども、どういう建物を建てるかという段階から、いくつかの関係部署が集まっています。</p>
加藤副部長	<p>今であれば、総合計画の延長線上で複数の部局が連携しながら何かしないといけないということになれば、予算を考える段階でも、関連する部署を見ながら、自分の所はより効果的にするために何をするかというのは事前にわかるということですよ。</p>
事務局	<p>当然実行していく段階でも、関係部署がいくつか関わってくるということは当然ありますので、そのあたりは若干課題があるかもしれない。</p>
加藤副部長	<p>予算を上げるときに少なくとも関連部署のことを考えながら上げるということは、やろうとすれば、できるってことですかね。</p>
事務局	<p>そうですね、1 つの事業で複数の部が手分けをして予算を組んでいくというのはあります。</p>
事務局	<p>例えば、本市には百済寺というところがあるんですけども、あそこは国の特別史跡で指定されているところで、それを整備するのは、文化財ですので社会教育部、ただ、底地は神社が持っていて、そこを管理するのは公園課なので土木部、また、再整備するにあたっては、雨水など下水道の関係もあります。そうなってくると予算はどうするということで、どういう形で整備するかというのは社会教育部の方で審議会を作っていた上で、そこで議論していただいた上で、具体的な作業としては今申し上げたように、公園だったり、下水だったりが集まって、どういう整備をするからこれだけの予算がいりますということで予算要求するという流れは庁内的にはあるということです。</p>
加藤副部長	<p>そうすると、我々が横串といったときに、関連する 1 つのセットというか柱を立ててあげると集まりやすいということでしょうか。</p>
新川部会長	<p>できれば少し具体的に言ってあげると重点化施策になるということもあると思います。</p>

三輪敦子委員	<p>一方で、計画というのは生きたものだと思うので、状況が変わり、想定されていなかったような連携の必要性が後々わかってくるというようなことは常にあると思います。そうなったときには、完全に人の問題になってくると思うんです。つまり、横串、連携が必要だと認識した職員の方が、じゃあ、どこ連携することが必要かという判断をされて、場合によってはリーダーシップを発揮していろいろな方や組織を巻き込みながら、自在に連携を組んでいく。そのような場合、往々にして予算の問題が出てくるのですが、これは枚方市での経験ではないですが、予算というのは付け方の問題で、工夫次第で柔軟な使用が可能だという現実も経験してきています。引っ張ってることができる費目を見つけることが重要ということですね。そうなってくると、計画段階で、私たちが柱を立てるのは、もちろんすごく大切なんですが、より重要なのは、横串をどれだけ具現化しようと思えるかという、職員の方のコミットメントというか、意識ではないかと思えます。そのあたりについては、これはここでそうしますとか、できませんとか簡単にお答えいただけることではないとは思いますが、全体的な意識としてはあると考えてよろしいですか。</p>
新川部会長	<p>枚方市職員にそういう文化があるかということですね。</p>
加藤副部会長	<p>その前に公務員一般というのがまずありますからね。</p>
三輪敦子委員	<p>それもあります。一言で答えていただける問題ではないと思いますが。</p>
新川部会長	<p>他の組織と連携してやっていこうという気持ちがあるか、市民と連携してやっていこうという気持ちがあるか、民間事業者と一緒にやろうという気持ちがあるか。まあないでしょうね。</p>
三輪敦子委員	<p>若い職員の方たちのそういった場もあるというのを聞いているので、そういった場が連携に関する必要性だとか、具体的に動き出すきっかけをつくる場になれば素晴らしいと個人的には強く思います。</p>
宮原委員	<p>今ご意見を伺っていて思ったんですけど、地域づくりデザイン事業でしたか、地域で必要な課題を見つけて、5年間で300万円出すというシステムが枚方市にある。市の職員にもそういう制度があったらいいですね。もっと連携して、暴れたくてもできない、計画にもまだうたわれていない、やりたくてもできないという思いがあるとしたら、市の職員さんにも、そういう予算があってもおもしろいかと思います。</p>
新川部会長	<p>職員提案制度はなかったでしょうか。いっそのこと、トヨタと同じで改善かんぱん方式か何かで、小グループを作って改善を出していかないとこはみんなだめと。小集団方式ですね。今のは極端な話ですけど。</p> <p>すみません。8時を回ってしまいました。つい楽しく話してしまいました。これはいくらでも話が広がりますね。</p>
三輪信哉委員	<p>今、会長がおっしゃった、文化という部分、そういうことをやらんといかんぞということを積極的に考える市の職員の方や市民の方、事業所の方がいらっしゃるかどうかが胆で、そこさえあれば何とか問題に対処できる感じもするんですね。だから、これから想定のできないようないろいろな問題がどんどん起こってきたときに、今までのやり方は効かなくなるので、すぐに集まって話し合っ、そこで何か具体的に対処していくような、柔軟性というんですか、それって結構高いレベルでの構想に戻るのかもしれないけれども、それを打ち立てて、枚方市のこれからの構想では、問題に対して、横串ということがいいかはわかりませんが、ともかくも柔軟に連携をとりあいながら対処するという、そうでないとこれからの課題は超えられないと思うんですね。その辺の書きこみ方は、どこか高い位置に置いておくといいと思います。</p>

一般的に、抽象的なレベルで連携とか協働ということを枚方市のすべてにあたっての基本的な風土・文化にしていけないといけないという話があって、でも、もう一方で、それを作っていくためには、職員がちゃんと他の部門との連携をいつも意識して、それから、市民や団体、行政や事業者、ほかの市民との関係をしっかり考えて、そういうことを打ち出せるといいかもしれません。

もう8時になってしまいました。何か言い残したこと、これだけはというのがございましたらお聞きしたいと思いますが、今日のところは、最後に横串、重点化の話も少し入ることができました。いろんな大事な論点をいただきました。また、整理は事務局の方でしていただいて、今日のこの段階では特にしないことにしたいと思います。

ここまでの話を振り返って、ここは抜けてるとか、この点はもっと大事だ、全体を通じて、前回の話で先ほど事務局から少しまとめていただきましたけど、ここは補足をしておきたいとか、こんな視点はということがあればお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

今日もいろいろとご意見をいただきました。特に、地域の活力、地域資源を生かして人々が集い、どう活力がみなぎっていくのか、ということについていろいろとアイデアをいただきました。枚方の力をどういうふうに広げていったらいいのか、もっと小さなビジネス、身近なビジネスに目を向けたらいいのではないかという話をいただきました。

農業というところ、いろいろと課題もありますが、後継者や耕作放棄地を含めて、農業って大事ですよ、なんとか枚方で続けていけるようにということでお話いただきました。

大学との連携、そして若い人の就職、こういう意見もいただきました。同時に就労という点では、高齢者の方々、福祉にもなりますけど、総合的にもっと高齢者の生き方を考えていく必要がある。この辺は横串かもしれません。

環境の問題では、地域の資源として里山の話をいただきました。観光資源として売ろうとしているのに、この状態はなんだという話が随分あって、やはりこれはもっと強めに出しましようという話もいただきました。

また、水の問題、ある意味では水を通じていろんなところをトータルに考えることができる、そういう性質を持っていますけれど、上下水道だけではなく学校の水、河川の水、あるいは環境の水、いろんなお水のお話もいただきました。

地球温暖化対策でいえば環境管理、あるいはエネルギー管理の仕組み、これを行政が率先して市民にも広げていく、そういうお話もいただいたかと思います。まちの美化や、まちの景観、これはやはり褒めないときれいにしないよと、褒める課を作れというご提案もいただきました。

それから行政運営のところについては、情報発信や広報広聴、市民とのやり取り、ここをしっかりとやっていく具体的な方向を出せということで、市民の方も努力をするということを考えていくという意見をいただきました。また、市民の活動をどう支えるのか、市民活動の支援の仕方、ここも逆に市民の側がどういう努力を自分たちでしないといけないのか、競争させないでくださいということもありましたが、しかし、まだそこまで至っていない市民がおそらくかなり占めているだろうということからすると、市民の方々にもどこかで頑張ると言わないといけないということであったかと思います。

もう一つ、行政運営でありましたのは、市の財産、老朽化している施設も含めて適切に管理する。管理をするだけではなくて、それをどう有効に活用するか。地域の大事な資源として、いろんな行政サービス、あるいは地域の活動を結び合わせるような総合的な視点でぜひ考えていただきたいということでお話をいただいたかと思います。

そうした行政運営の中で大事なものは、やはり組織の運営や、特にその組織を支える人材、こういう人たちが本当に縦割りではなく全市的な視点をもって連携・協調を旨として動いていただく。そんな職員が育てばいいですし、そういう市民がたくさん増えるのがいい、そういう行政の組織体制というのがとれるといいですねということでお話いただいたかと思います。

あわせて、これからやっぱり市民協働のようなこと、行政、市民、事業者、いろんな担い手が協力をして、枚方市をみんなで一緒に支えていく、あるいは、もっと住みよい

	<p>まちにしてい、そんな観点で新しい枚方の文化みたいなものが生まれて、そしてそれを毎日の現場の中で実践していつ、そんな姿をこの計画の中に書けるとすばらしいのではないかとお話しただいたかと思ひます。</p> <p>このようなまとめ方をさせていただきたいと思ひますが、委員の皆様方、ざつとこんなところでもよろしゅうござひますか。ありがとうございます。</p> <p>それでは少し予定の時間を過ぎてしまいましたけれども、本日、後半の3つの柱について議論いただきました。また、少しだけ重点化の部分についてのお話をいただきました。この後の手順といたしましては、今日いただきましたご意見を事務局の方で整理していただき、次回の審議会までにはいただき、議論もさせていただくということになるかと思ひます。</p> <p>事務局の方から少し、今後の進め方を含めてご説明いただけますでしょうか。次の議題に入ってしまうますが、よろしくお願ひします。</p>
事務局	(資料3「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)
新川部会長	<p>どうもありがとうございます。今後の進め方をご説明いただきました。次回4月24日、そこまでに前回と今回でご議論いただきました基本計画の部門別、それから重点化についてもいろいろといただきましたので、それについても事務局の方でまとめていただく。加えて、指標のご議論、これは前々からいただきまして。どんな指標ができるか、まだ最初の段階かもしれませんが、それについても考え方等を含めてご提示いただくということでお話しいただきました。次回以降の進め方で特にご意見なければこれで進めさせていただきますが、いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。それでは次回の審議の進め方、今後の進め方については以上にさせていただきます。</p> <p>それでは次第の3番目、その他、事務局から何かござひますでしょうか。</p>
事務局	<p>本日、活発なご議論をいただきまして誠にありがとうございます。それでは、その他といたしまして、本日の資料等のご不明な点等につきましては、3月30日月曜日までに電話、メール等でお知らせいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>また、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただければ、バインダーに閉じ保管をさせていただきます。また、本日の会議録につきましては事務局で作成してから、会長とも調整をさせていただきますしてホームページ等で公表してまいります。</p> <p>なお、次回の審議会は、先ほども申しましたが4月24日金曜日午後6時から市役所別館4階で開催をさせていただきます。よろしくお願ひを申し上げます。</p>
新川部会長	<p>どうもありがとうございます。今もありましたように、いろいろとご意見、あるいはわかりにくかったところなどあろうかと思ひます。事務局の方にお伝えをいただければと思ひます。それらをまとめて次の基本計画の素案というものが出てくると思ひます。できれば4月24日より少し前に委員のお手元に届くといいなと思っておりますが、なかなか細部にわたりますので、大変かもしれませんが、そこはひとつ事務局に頑張ってお願ひできればと思ひます。</p> <p>その他、今後、次回の進め方について、事務局からもござひましたようにご意見があればということ、それから次回のご審議では基本計画をご議論いただきますので、できるだけ早い段階で資料をとということでお願ひさせていただきます。その他の事項については、もし何か各委員からご注文などござひましたらいただきたいと思ひますが、よろしゅうござひますでしょうか。特になければ、こういう進め方でいきたいと思ひます。本日は本当に長い時間ありがとうございます。それでは、第4回枚方市総合計画審議会第1部会終了とさせていただきます。どうもご苦労さまでござひました。ありがとうございます。</p>